

## 視点 //

# 「できる」心をつくる —成功イメージの脳科学—

人財教育家・メンタルコーチ  
飯 山 晓 朗



「メンタルコーチ」ってどんな仕事?と思われるかもしれませんね。私がコーチングを学んだのが'03年、その後「人の心」に興味を持ち、脳神経科学の学習をし始めたのが'10年です。そこから学んだ知見をもとに、メンタルコーチとして主にスポーツ分野で"試行"し始めたのが'12年でした。なぜスポーツなのかというと、メンタリティがどのように影響するかを研究する上で、スポーツは結果がわかりやすいということからです。

まずは馴染みのある高校野球からスタートしました。かつては強豪校と言われていましたが、ここしばらく甲子園に出場していなかった石川県の私立星稜高校と富山県立高岡商業高校でメンタルコーチとして関わることになりました。この時点では、星稜は6年間、高岡商業は7年間甲子園から遠ざかっていました。ともに石川県、富山県で最多の出場を誇る高校です。しかし、しばらく出場していないので、甲子園に出場するイメージが描けないチームになりました。甲子園の常連だった高校でも、何年も出場の機会に恵まれず遠ざかってしまうと、甲子園で活躍している姿を描けなくなってしまいます。古豪と呼ばれ、かつては甲子園にも出場したが、それも遠い昔になってしまっている高校、ましてや甲子園に出場したことのない高校は、甲子園に出場できると思うこと自体が難しいわけです。

実は、成功を思えないのは、成功に対する感情が否定的になっていることが多いのです。「成功しなければいけない」と義務感を感じたり、「どうせ無理」と最初から諦めていたり、成功者に対する妬みなどがそうです。こんなときは、まず成功に対する感情を肯定的にする必要があるのですが、そのためにイメージを活用します。脳はイメージしていることを実現しようとしています。「イメージ=結果」なんですね。そしてイメージに感情を込めると、強く記憶に残すことができます。結局は記憶からしか私たちの言葉

や行動は出てこないのです。つまり思考は現実化する、イメージは結果だということです。

星稜高校が'14年夏の県大会決勝で0-8から9回裏に9点とて大逆転で勝利して甲子園出場を決めたことがあります。このときも試合後に主将と握手しながら「すごい試合だったね」と言うと「勝つイメージしかなかったんです」と話してくれました。この高校野球史上前代未聞の逆転劇があつてからは、5,6点のビハインドでも問題ないと思えるようになり、甲子園大会でも逆転劇が多くなりました。星稜の逆転劇のイメージが高校球児たちに強く記憶されたからです。またこのときの「必笑」という合言葉も話題になり、笑顔で楽しそうにプレーする姿は甲子園でも“必笑旋風”を起こしました。以降、多くの球児が笑顔でプレーするようになりました。高岡商業も夏は'15年に7年振りに甲子園出場を決めるなど、2年連続で甲子園ベスト16に進出するなど、5大会連続で甲子園に出場できるようになりました。彼らは試合の最後のアウトをとて皆でマウンドに集まって喜び、ヒーローインタビューの練習までしています。ただ単にイメージするだけではなく、それを実際に体現しているのです。

成功を思えなければ、思うトレーニングをすればいいのです。望む結果を実現した、つまり成功のイメージを描き、それを言葉や行動で表現していくことで、記憶の定着を図ることができます。こうして「できる」と思える心がつくられるのです。



### プロフィール

飯山 晓朗 (いいやま・じろう)

オリンピックでの逆転金メダルや高校野球史上に残る奇跡の大逆転、顧客満足度日本一になった中小企業などをサポートしてきた、リーダーシップ・コーチングの専門家。著書は16冊(文庫版、海外版含む)。中小企業庁が運営する全国の中小企業大学校では「リーダーシップ講座」「コーチング講座」「チームビルディング講座」「経営管理者コース」の講師を務め、目標の実現など望む結果を得るノウハウを脳科学に基づいて提供している。

# 全日本私立幼稚園連合会

●～全日本私立幼稚園連合会からのお報告～

## 「全日本私立幼稚園連合会 委員長就任に伴うご挨拶」

政令指定都市特別委員会

委員長 三木 治郎

全日本私立幼稚園連合会の政令指定都市特別委員会の委員長に就任いたしました、神戸市の三木治郎と申します。微力ではございますが、全日本私立幼稚園連合会加盟園の子ども達のため働いて参ります。

「子ども・子育て支援新制度」が平成27年から始まり10年が経過しています。幼稚園の施設が大きく分けて4つの類型となり、私学助成園は各都道府県と、また、新制度園は各市町村とのやりとりの中でそれぞれの地域の実情に合わせた子育てにおける事業を進めています。現在、新制度への移行が進んでおり、都道府県によって差があるものの令和6年度の実績では全国の幼稚園のうち、66.5%が新制度へと移行しています。新制度の施設は主に市からの補助が多くあり、市との情報共有ややりとりの重要性が増してきているといえるでしょう。こういった状況の中で問題となることの1つに、市町村に対する要望や情報のやりとりの頻度により、子育て支援や教育施策に地域格差がでてくることだと感じています。国は少子化対策として沢山の施策を打ち出していますが、この国からの施策は各市町村においてそれぞれの地域にあったものにカスタマイズされた上で実施されることが多いようです。「子ども誰でも通園制度」もその1つであり各市町村において検討することの多いものです。また、特別

支援補助については、県の補助と市町村の補助とでは大きな違いがあり、同じ2号認定の子どもでも幼稚園型は文部科学省で幼保連携型はこども家庭庁というふうに分かれていますが、不自然な部分が残っています。こういった問題は県のみならず市町村と共同しながらの話し合いの中でこそ、解決が促されることだと感じています。市町村とやりとりが盛んな自治体は市町村単独補助が充実し国の施策を補っている地域がたくさんでています。人口減少を補うため、地区によっては自治体同士が競い合うようにして「子育てするなら〇〇市！」と声を上げている地域もみられ、そこには、地域間の格差がより進むことが懸念されます。

政令指定都市においては、市とのやりとりが盛んな地区が多くあります。また、新制度園への移行率にも差があるものの、先行している地域からたくさんの情報が集まりやすい状況です。政令指定都市特別委員会では、こういった情報を発信すると共に、市独自の要望や困り事に対する対策についての研究を重ね、全日本私立幼稚園連合会加盟園の皆様のため、情報を発信し、国や自治体への要望につなげていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

### 保育と子どものおもしろさを伝え、ワクワクを広げる

みんなでつくる園の未来！

# 保育ナビ

子ども・子育て政策が大きく動く今、持続可能な園づくりの役に立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「園の多機能化」など必須の情報をお届けします。

● B5判 64ページ 定価 1,200円（本体 1,091円+税 10%）

保育の楽しさ・魅力を  
実践事例で紹介！

国の動きを伝え、  
持続可能な  
園づくりをサポート

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>  
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部 営業支援チームまで

キンダーブックの フレーべル館

● 7.16 政策担当会議

## 令和 7 年度第 16 回都道府県政策担当者会議報告

7月16日(水)、アルカディア市ヶ谷にて令和7年度第16回政策担当者会議が開催され、振興活動を担当されている先生方が、全国から77名(社長含む)もご参集下さり研修会が開催されました。はじめに、尾上正史会長から開会の挨拶があり、つづいて石田明義政策委員長から、研修会にかかる趣旨説明がありました。なお、研修会の主な内容は以下のとおりです。

### 【行政報告】

演題 「令和7年度文部科学省予算と新たな支援策の解説」  
講師 文部科学省 高等教育局 私学部 私学助成課 助成第四係長 稲尾大二郎

### 【委員会報告】

テーマ 「各都道府県毎の振興活動について～政策委員から報告～」  
登壇者 政策委員会 副委員長 鈴木 教義  
政策委員会 委員 若山 清和  
政策委員会 委員 伊東 慶  
コーディネーター  
政策委員会 委員長 石田 明義

### 【フォーラム】

演題 「各都道府県における行政等への振興活動について～超少子化社会のなか、効果的で望ましい要望のあり方～」



登壇者 全日本私立幼稚園連合会 副会長  
藤本 明弘  
認定こども園委員会 委員長 徳本 達之  
政策委員会 委員 堂山 宗敬  
コーディネーター  
政策委員会 委員長 石田 明義

おわりに藤本明弘副会長から閉会のことばをいただき閉会しました。政策委員会では、振興活動が多様化(私学助成園・新制度園)している現状を鑑み、今後も振興活動に関する「情報」並びに「見識」を深めることができるように研修会にしてまいり所存です。全国の政策担当者の先生方におかれましては、お忙しい中、研修会にご参加いただきありがとうございました。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

# 月刊 保育とカリキュラム

毎月 2 日 発売

 ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151 代表  
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111 代表

## 令和7年度事業計画案・収支予算案などを承認

7月28日（月）、アルカディア市ヶ谷において全日本私立幼稚園PTA連合会の令和7年度委員総会が開催され、61名の方々の出席により、開催されました。

はじめに、山本順三参議院議員・全日私幼P連会長から開会のことばがあり、月本喜久・全日私幼P連顧問からごあいさつをいただきました。

その後、議長に穴見憲昭・全日私幼P連副会長を選出し、議事に入りました。

### 議題（1）役員改選の件

役員改選について、会長に山本順三氏の選任が満場一致で議決されました。副会長には、遠藤利明衆議院議員（山形県）、大越誠之氏（北海道）、山中麻里氏（埼玉県）、眞榮城健二氏（沖縄県）が、監事には千葉一道氏（静岡県）、宮地彌典氏（高知県）が選任され、満場一致で議決されました。

また、最高顧問に森喜朗氏、顧問に月本喜久氏に就任していただくことが報告されました。

### 議題（2）令和6年度事業報告及び収支決算承認の件

### 議題（3）会務監査報告の件

令和6年度事業報告並びに、収支決算書報告について全日私幼P連事務局から、それぞれ説明がありました。続いて千葉・全日私幼P連監事から会務監査報告があり、満場一致で承認されました。

### 議題（4）令和7年度分担金の件

### 議題（5）令和7年度事業計画案・収支予算案の件

令和7年度分担金、収支予算案、令和7年度事業計画案について全日私幼P連事務局から、説明があり、質疑応答ののち、満場一致で承認され本総会を終了しました。



令和7年度PTA常任委員会構成員一覧

役 職	氏 名	都道府県	
最高顧問	森 喜朗		
顧 問	月本 喜久	東京県	P
会 長	山本 順三	愛媛県	P
副 会 長	遠藤 利明	山形県	P
	大越 誠之	北海道	P
	山中 麻里	埼玉県	P
	眞榮城健二	沖縄県	P
常任委員	浅利 健自	北海道	T
	青木 健太	山形県	P
	千葉 亮子	山形県	T
	高橋 司	新潟県	P
	角谷 正雄	新潟県	T
	松尾 創	埼玉県	T
	田中 千鶴	神奈川県	P
	田中 伸宜	神奈川県	T
	北村 朱莉	岐阜県	P
	波岡 伸郎	富山県	T
	宮崎 健一	兵庫県	P
	山中 真介	兵庫県	T
	原 幸徳	岡山県	P
	光岡美恵子	岡山県	T
	二宮 一朗	愛媛県	T
監 事	池原 基生	沖縄県	T
	千葉 一道	静岡県	T
	宮地 彌典	高知県	T
全 日	尾上 正史	福岡県	T
	内野 光裕	東京都	T
	宮崎 史郷	福岡県	T

**全日本私立幼稚園 P T A 連合会  
令和6年度・収支決算書**

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位:円)

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	差 異 (A)-(B)	摘要
収入の部				
分 担 金	46,000,000	43,218,850	2,781,150	園児1人50円×各都道府県加盟園児数（3号子ども含む）
雑 収 入	600,000	102,030	497,970	利息・広告料・保険事務費他
収 入 計	46,600,000	43,320,880	3,279,120	
支出の部				
会 議 費	4,300,000	4,550,004	△ 250,004	
常任委員会費	1,000,000	34,000	966,000	旅費・会議費
委員総会費	3,000,000	4,283,774	△ 1,283,774	旅費・会議費
その他委員会費	300,000	232,230	67,770	旅費・会議費（正副会長会、監査会他）
事 業 費	33,600,000	16,381,544	17,218,456	
大会費	7,000,000	7,778,096	△ 778,096	旅費、会場・会議費、講師謝金、印刷費、補助費
広報費	18,000,000	632,500	17,367,500	生活の中の子どもの権利（改訂版印刷費）
涉外活動費	100,000	0	100,000	出張費他
地区活動費	4,000,000	3,813,440	186,560	9地区（9地区按分）
組織強化費	4,000,000	3,457,508	542,492	47団体（会費8%）
振興対策費	500,000	700,000	△ 200,000	予算対策運動（会議費含む）
事 務 費	7,500,000	7,509,347	△ 9,347	
固定経費等	6,500,000	7,509,347	△ 1,009,347	顧問料、人件費、通信費、手数料、交通費、消耗品費等
裁判費用等	1,000,000	0	1,000,000	裁判費用等
予 備 費	1,200,000	0	1,200,000	
支 出 計	46,600,000	28,440,895	18,159,105	
当期収支差額	0	14,879,985	△ 14,879,985	
前期繰越収支差額	41,639,206	41,639,206	0	
次期繰越収支差額	41,639,206	56,519,191	△ 14,879,985	

注) この収支計算書は、発生主義に基づき記載しております。

## 令和8年度 概算要求（幼稚園等）の概要について

日頃より、本連合会の諸活動に対しご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。令和8年度概算要求の概要が明らかとなりましたので、ご報告いたします。今後、年末にかけて、担当省庁（文部科学省、こども家庭庁）と財務省との折衝が行われることになります。本連合会としても引き続き関係予算の確保に向け、取り組んで参ります。

### 1. 幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上 64億円+事項要求

幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上に向けて、自治体への支援、調査研究、教育環境の整備等により、全ての子供に対して格差なく質の高い学びを保障する。

#### ○幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上を支える自治体への支援 <6億円>

自治体における幼児教育センター等の幼児教育推進体制等を活用して、架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）のカリキュラムの策定や架け橋期のコーディネーターの育成・派遣を行うなど、各地域における「幼保小の架け橋プログラム」を推進し、幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上を図る。

- ①幼児教育推進体制等を活用した幼保小の架け橋プログラム促進事業 5.6億円（5.3億円）
- ②幼保小連続による不登校・いじめ対策等に関する調査研究事業 0.4億円（新規）

#### ○幼児教育の質の向上に関する調査研究等 <3.6億円>

幼児期の学びを深めていくための調査研究や、幼稚園教諭等の人材確保のための実証・モデル事業、幼児教育が子供の発達や小学校以降の学習や生活に与える影響について検証するための大規模な追跡調査等を実施し、幼児教育の質の向上を図る。

##### ①幼児教育の学び強化事業 0.7億円

- (1) 教育課題に関する調査研究
- (2) 幼稚園教諭等の資質能力の向上に関する調査研究
- (3) 子育ての支援や家庭等との連携強化に関する調査研究

##### ②幼稚園教諭等の人材確保のための人材バンク創設・コンソーシアム構築事業 1.2億円（新規）

- (1) 人材バンク創設事業
- (2) コンソーシアム構築事業

##### ③幼児教育に関する大規模縦断調査事業 1.1億円

- (1) 実施対象：令和6年度における5歳児を対象とした5年間の追跡調査
- (2) 調査方法・調査対象：①保護者②施設の園長・担任保育者③小学校の校長・担任教師
- (3) 調査内容：①保護者／子供の成長、資質・能力、家庭での養育環境 等  
②施設の園長・担任保育者／保育者の人数、園の取組、労働環境、保育者の実践 等（※本調査1年目（令和6年度調査）のみ）  
③小学校の校長・担任教師／幼保小接続の取組、学級風土 等（※本調査2年目（令和7年度調査）～）

##### ④幼児教育の理解・発展推進事業 0.4億円（0.3億円）

- (1) 幼児教育の理解・発展推進事業
- (2) 幼稚園教育要領等の改訂

○幼児教育の質を支える教育環境の整備 <55億円>

ICT環境整備や施設の耐震化等、幼児教育の質を支える教育環境整備を支援する。

①教育支援体制整備事業交付金 31億円（8億円）

(1) 幼児教育の質の向上のための緊急環境整備

対象校種：幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園

(2) 幼児教育の質の向上のための研修支援

対象校種：幼稚園、認定こども園、保育所

(3) 園務平準化のための業務体制への支援

対象校種：幼稚園

(4) ICT環境整備の支援

対象校種：幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園

※補助割合 国 1/2 等

②私立幼稚園施設整備費補助金 24億円（5億円）+事項要求

(1) 耐震補強工事

(2a) 防犯対策工事

(2b) 特別防犯対策工事

(3) 新築・増築・改築等事業

(4) アスベスト等対策工事

(5) 屋外教育環境整備

(6) エコ改修事業

(7) 内部改修工事

(8) バリアフリー化工事

※ (1)～(8)の対象校種：私立幼稚園

※補助割合 国 1/3 事業者 2/3

※地震による倒壊等の危険性が高い施設の耐震補強・耐震改築

特別防犯対策 国 1/2 事業者 1/2

○OECD ECEC Network 事業の参加 <0.2億円>

(1) 質の高い幼児期の教育の提供を基本理念とする「子ども・子育て支援新制度」の開始、幼児教育・保育の無償化の実施に加えて、令和2年9月のG20教育大臣会合において質の高い幼児教育へのアクセスの重要性が宣言されるなど、国内外で幼児教育の質に対する関心が高まっているところ。

(2) このため、OECDが実施する国際幼児教育・保育従事者調査等に参加し、質の高い幼児教育を提供するための基礎データの整備に貢献するとともに、これらの事業への参加により、国際比較可能な幼児教育・保育施設の活動実態に関するデータや、各国の好事例など、質の高い幼児教育の提供に向けた施策展開のための重要な基礎情報を得ることとする。

※【事項要求】とは、個別政策の予算要求額を明記せず、事項（項目）だけを記載して要求すること。

## 2. 私立高等学校等経常費助成費補助金（幼稚園分）205億円

### ○一般補助 <85億円>

- (1) 園児1人あたり単価：26,031円（510円増）
    - ・物価上昇等への対応による増額
  - (2) 幼児教育の質の向上のための幼稚園教諭の人材確保等の人材確保支援
    - ①継続的な賃上げ（9,000円を超える）による待遇改善の実施  
(9,000円までは一般補助の単価引き上げにより支援)
    - ② ①に加え、教員のキャリアアップやマネジメント力の強化等を目的とした  
幼児教育の質の向上のための待遇改善の実施
      - ・中核リーダー・専門リーダー 40,000円（月額）
      - ・若手リーダー 5,000円（月額）
      - ・専修免許状・一種免許状への上進者 5,000円（月額）
- ※月額は全て上限額であり、上記待遇改善に対する都道府県補助の一部  
※負担割合：国1/4 都道府県1/4 園1/2

### ○特別補助 <120億円>

- (1) 教育改革推進特別経費（子育て支援推進経費）<40億円>
  - ・預かり保育推進事業
  - ・幼稚園の子育て支援活動の推進
- (2) 幼稚園等特別支援教育経費 <80億円>  
都道府県が、特別な支援が必要な児童が1人以上就園している私立の幼稚園又  
は幼保連携型認定こども園に特別な助成を行う場合、国が都道府県に対してそ  
の助成額の一部を補助

※上記のほか、「教育の質の向上を図る学校支援経費」において、安全確保の推進等に  
必要な経費を要求（25億円）。

※単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある

## 3. 子ども・子育て支援制度関係

令和8年度の公定価格等の内容については、「令和8年度予算の概算要求につい  
て」（令和7年8月8日閣議了解）に基づき、予算編成過程で年末までに検討されま  
す。

加盟園の皆様のご支援・ご協力をいただきながら要望活動を行った結果、令和7年度  
概算要求については、それぞれの園の教育活動に必要な経費が盛り込まれているものと  
考えております。この内容が認められ、来年度の予算となるよう、本連合会としても取  
り組んでまいりますので、加盟園におかれましても、引き続きご支援・ご協力を下さ  
りますようお願いします。

[今号は3枚]



## 第40回全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会

### 経営研究委員会・佐々木慈舟委員長からのご案内

「こども基本法」の施行、「こども大綱」の閣議決定、国として「こどもまんなか社会」を掲げる姿勢は一步前進ですが、理念を実効性ある教育・保育の充実へと結びつけることこそが、私たちに課された責務です。現場の課題、とりわけ人材確保や財政的基盤の脆弱さ、地域間格差の解消などは依然として十分に解決されておらず、政策と現場との間に乖離が生じかねない状況も見受けられます。

私たちは長年「こどもがまんなか」の理念を掲げ、その具体化に取り組んできました。少子化が進む社会において、幼児教育・保育の現場が果たす役割は今、かつてないほど重く、地域教育のインフラとして改めて存在感を発揮する必要があります。園長先生方が「経営」と「教育」を一体として推進されている姿こそが、こどもたちの権利を守り、未来社会を支える礎となります。

本年度の第40回大会では、「こどもがまんなかの幼児教育の充実・発展を考え合う～社会状況の変化を乗り越える園を目指して～」をテーマに、茨城県水戸市・水戸市民会館を会場に開催いたします。また懇親会は水戸京成ホテルにて開催予定です。水戸は徳川光圀公の学問奨励に象徴されるように、教育と文化を大切に育んできた町であり、幼児教育に携わる私たちが未来への志を新たにするにふさわしい地であります。

初日のプログラムでは、茨城県立大洗高等学校マーチングバンド部「BLUE-HAWKS」監督の有國淨光氏による記念講演「大切な忘れ物～昭和世代の独り言～」、文部科学省並びにこども家庭庁による最新の行政報告、2日目には教育研究委員会・政策委員会・経営研究委員会・認定こども園委員会による4つの分科会を開催いたします。

第40回という節目を迎える本大会が、各園の経営と教育の確かさをさらに高め、幼児教育の未来を共に切り拓く契機となり、社会の変化にしなやかに対応できるレジリエンスを育む場となることを願っております。多くの皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

### 開催要項

- **テーマ** こどもがまんなかの幼児教育の充実・発展を考え合う  
～社会状況の変化を乗り越える園を目指して～
- **期日** 令和7年10月27日（月）・28日（火）
- **会場** 茨城県水戸市・水戸市民会館
- （全体会） 〒310-0026 水戸市泉町1-7-1 ☎ 029-303-6226  
（分科会） ※JR水戸駅（北口）から徒歩20分／  
路線バス：北口（4～7番のりば）から約5分「泉町一丁目」下車、徒歩1分
- **懇親会** 茨城県水戸市・水戸京成ホテル  
〒310-0011 水戸市三の丸1-4-73 ☎ 029-226-3111  
※JR水戸駅（北口）から徒歩3分  
※本年度は大会会場と懇親会会場が異なっておりますのでご留意下さい。  
※水戸駅→大会会場→懇親会会場をつなぐシャトルバスを手配する予定です。詳細は追ってご連絡いたします。
- **形式** 対面形式（オンライン配信はございませんのでご留意下さい）
- **対象** 設置者・園長ならびに後継者、またはこれに準ずる者
- **定員** 600名（定員になり次第締め切らせていただきます）

【第1日】／10月27日（月）

## 〈水戸市民会館〉

12:00～13:00 受付

13:00～13:50 開会式

14:00～15:30 記念講演 「大切な忘れ物～昭和世代の独り言～」

【講師】 茨城県立大洗高等学校マーチングバンド部  
『BLUE-HAWKS』監督 有國 浄光 氏

（略歴）

山口県出身 武蔵野音楽大学卒業 現茨城県立大洗高校常勤講師 72歳  
昭和50年、大洗高校に着任と同時に吹奏楽部を創部、以来52年間にわたって大洗高校マーチングバンド部『BLUE-HAWKS』の指導育成にあたる。  
平成21年、茨城県教育委員会より マイスター オブ チーチャーの称号授与。  
平成30年、文部科学省より優秀教員（団体）表彰。  
令和元年、文化庁より長官表彰。

15:45～16:30 行政報告① 「幼児教育の現状と課題」

【講師】 文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課長（予定）

16:45～17:30 行政報告② 「保育政策ならびに行政の動向について」

【講師】 こども家庭庁 成育局 課長（予定）

（会場移動） ※本年度は大会会場と懇親会会場が異なっておりますのでご留意下さい。

## 〈水戸京成ホテル〉

19:00～20:30 懇親会

本大会の内容については、全日私幼連ホームページ (<https://zennichishiyouren.com>) からもご覧頂けます。

## 【第2日】／10月28日(火)

9:30～12:30 研究講座

### 1. 教育 『創りだそう！こどもの未来を拓く良質な乳幼児期の教育を』

一層深刻さを増す現代の少子時代は、社会情勢に影を落とし、教育の現場においてもその影響は大きいです。このような時代の中でも、私たちは「人を育てる」という尊い使命を通じ、目の前のこどもたちの生涯にわたる人格形成の基礎を培うという、重要な役割を担い質の高い幼児教育を目指しています。そのために、社会全体が「こどもは愛おしく、社会にとってかけがえのない存在である」という思いを抱き、こどもを一人の「主体者」として尊重し、その権利を保障することが重要です。またその尊重のうえにこそ、良質な環境と教育が構築されると思っています。この度は誕生から成人期までの、連続した学びを保障していくことをする世界的な教育活動にも踏まえ、こどもが持つ「有能性」を存分に發揮できる『こどもがまんなか』ということを、様々な発達段階における、主体的な活動としての遊びを中心とした、保育実践を通して考える機会としたいと思います。基調講演を受けて、参加者の皆様とも『こどもがまんなか』について語り合う時間も設けております。皆様のご参加をお待ちしております。

基調講演 「世界は美しくて面白い～子どもの有能性から保育をはじめよう～」

【講 師】 十文字学園女子大学  
お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所  
NPO法人練馬春日町幼児教室「はじめのいっぽ春日町」

名 誉 教 授  
客員研究員  
理 事 長  
上垣内伸子 氏

フロアディスカッション  
【登 壇 者】

十文字学園女子大学  
お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所  
NPO法人練馬春日町幼児教室「はじめのいっぽ春日町」  
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構  
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構  
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構  
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

名 誉 教 授  
客員研究員  
理 事 長  
上垣内伸子 氏  
安家 周一 氏  
丸谷 雄輔 氏  
熊谷 知子 氏  
岡本 潤子 氏

【進 行】

教育研究委員会  
教育研究委員会  
教育研究委員会  
教育研究委員会

委 員 長

### 2. 振興 『～幼児教育の質に対する振興を考える～

質向上のプランへ『良い幼児教育の“質”とは？』質の評価スケールの策定は可能か？』

待機児童解消の量的拡充を目的とした国の『新子育て安心プラン』が終わり、新たなプランの策定に入りました。これからは「質の向上」を重点としたプランを掲げています。こども家庭庁の今年度の調査事業に「保育の質や保育所等の職員配置に係る指標の在り方」をテーマに挙げています。この新たな質に対する振興の試みは、全日本私幼連が悲願として掲げてきた「幼児教育振興法」と重なる部分もあります。幼児教育振興法は、質の高い幼児教育を振興していくことを目的としています。また、質の向上を考える前に「良質な幼児教育」とは何か？「良い教育の定義」とは？はたして客観的、定量的に教育の質を評価できるのか？特に幼児教育は、義務教育以降の教育とはあらゆる点で異なるだけに、客観的に質を評価するには難しい側面があります。また私学の学校法人は、それぞれに建学の精神があることも難しいところです。なお認定こども園においては、福祉と教育を包含するため教育の線引きが難しいという課題があります。特に、0～2歳児の乳幼児においての教育とはどのようなものを指すのか？

前半、国立教育政策研究所・幼児教育センターから示された「幼児教育の質評価スケール案」について、(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構副理事長の宮下友美恵先生と共に「幼児教育の質」について考えます。そのエビデンスに対し、教育財源・補助金をどのようにアプローチしていくべきか？これから的新しい振興策『質重視の振興』への展望を考えてみます。

後半は、教育の定義、評価の方式について説明。また現場で保育・教育の質の向上を掲げて実践しているパネラーの委員から報告していただきます。現場での報告等を通して、良質な幼児教育の質とは何か？これから新たな振興活動の方向性を皆様と考えたいと思います。

第1部 対談「幼児教育の質とは？」国立教育政策研究所の評価スケールとECEQ®比較による展望と課題」

【講 師】 (一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 副理 事 長 宮下友美恵 氏  
全日本私立幼稚園連合会 政策委員会 委 員 長 石田 明義 氏

第2部 報告及び説明「教育の定義」「私学における質重視の事例報告」「評価の方式」等について

【パネリスト】 全日本私立幼稚園連合会 政策委員会 委 員 長 ※登壇者が決まり次第、全日私幼連のHPに  
全日本私立幼稚園連合会 政策委員会 委 員 更新します。  
【コーディネーター】 全日本私立幼稚園連合会 政策委員会 委 員 長 石田 明義 氏

### 3. 経営 『あなたの園はその時どう動くか～安心・安全な保育のための管理者の備え～』

地震や豪雨などの自然災害、園外活動中の事故、不審者対応、SNS発信による炎上リスクなど、私たちの園経営を取り巻く環境は、年々複雑化・多様化しています。突然の事態が起きた時、果たして自園の職員はどのように動くのか、園長として何を判断し、どこに連絡し、保護者にはどう伝えるべきなのか。いざという時の判断力と、平時の備えが問われる時代です。

本分科会では、ジャーナリストとして多くの保育現場を取り組まれ、現在は駒沢女子短期大学保育科教授・子ども安全計画研究所代表理事として活躍の猪熊弘子先生をお迎えし、実際の事例をもとに「危機管理とは何か」を設置者・園長の立場から深掘りします。また、民間の立場から保育施設の安全体制づくりを支援されている株式会社アイギスの代表取締役社長脇貴志氏には、災害やトラブルに備えるための「リスクマネジメント」や「コンプライアンス」の視点から、今必要とされる経営判断のポイントをお話しいただきます。大切なのは、マニュアルに書かれた通りに動くことではなく、現実の中で判断し、実行できる力を身につけておくことです。この分科会では、日常からできる備えとともに、万が一の時に職員と子どもたちを守り抜くための視点と行動力を養います。

園を取り巻くリスクは、誰のともに最も多く訪れます。その時、落ち着いて指揮をとれる園であるために。日常の忙しさの中では後回しにならがちな、非常時への備え。しかし、それは未来の子どもたちを守るために経営判断でもあります。参加された皆様にとって、自園を守り、職員を守り、子どもたちを守るために新たな視点と学びを得られる機会となることを願っています。

第一部 基調講演「子どもの命を守る私立幼稚園の役割～非常に時に問われる日常の保育」

【講 師】 駒沢女子短期大学 保育科 教 授 猪熊 弘子 氏

第二部 「事故後対応の重要性～先達はあらまほしきことなり」

【講 師】 株式会社アイギス 代表取締役社長 脇 貴志 氏  
【コーディネーター】 全日本私立幼稚園連合会 経営研究委員会 委 員 長 佐々木慈舟 氏

### 4. 認定こども園 『0.1.2歳児の保育・教育を考える～子どもたちの豊かな育ちとは～』

平成27年に「子ども・子育て支援新制度」が始まり、10年が経過。全日本私幼連加盟園も半数以上が施設型給付や認定こども園に移行しました。2024年の出生数は前年比5.7%減の68万6061人と、統計開始以来初めて70万人を割り込みました。待機児童の減少に伴い、国の施策も、保育の量の拡大から「質の向上」に軸を移し、こども家庭庁から「はじめの100か月の育ちビジョン」も示されました。認定こども園制度の諸課題も踏まえながら、子ども達の豊かな育ちについて0.1.2歳児の教育・保育を中心に考えていきたいと思います。

本講座では、まず保育SoWラボ代表・非営利団体コドモノミカタ代表理事の井桁行子先生より、基調講演を頂き、後半ではパネラーの先生から各地域での認定こども園の諸課題や、保育の質向上に向けた取り組みを報告頂き、保育・教育の質を考えていきたいと思います。

基調講演 「人生の始まりをしっかりと支え、人間らしさを豊かに育む保育」～誰もが幸せを感じて生きるために～

【講 師】 保育SoWラボ 代 表 井桁 行子 氏

パネルディスカッション  
【パネリスト】

保育SoWラボ  
全日本私立幼稚園連合会 認定こども園委員会  
全日本私立幼稚園連合会 認定こども園委員会  
全日本私立幼稚園連合会 認定こども園委員会  
【コーディネーター】 全日本私立幼稚園連合会 認定こども園委員会

代 表 井桁 行子 氏  
副 委 員 長 鮎川 剛 氏  
委 員 長 濱本 智子 氏  
専 門 委 員 湯目 崇史 氏  
委 員 長 德本 達之 氏

## 処遇改善等加算のしくみ

認定こども園委員会  
委員 樽木 陽子

## 処遇改善等加算の成り立ちとしくみについて

今回は処遇改善等加算のしくみについて説明します。令和7年度に改正となりましたが、内容については今までのものを見直すことと、統合したというところで、まず、成り立ちの経緯と内容について説明します。

- 平成27年度から始まった「子ども・子育て支援新制度」では、保育士不足が社会問題化していたため、**人件費に充てる特別な加算として処遇改善等加算Ⅰ**が導入されました。全ての職員を対象に、平均経験年数・キャリアパスの構築等に応じ加算率(最大19%)を設定しました。
- 平成29年度に**処遇改善等加算Ⅱ**として、中堅職員や専門リーダーを対象に、技能・経験に応じて月額4万円又は月額5千円の処遇改善を実施しました。
- 令和4年度からは賃金改善の補助要件として一人9000円の臨時特例事業補助が実施され、そのまま令和5年度より**処遇改善等加算Ⅲ**として加算に加わりました。
- これらの加算は、国の公定価格(施設給付費)に上乗せされ、自治体を通じて施設へ支給されます。しかし、このように後から加算の種類が増えたことで、それぞれに申請し、それぞれに算出するという事務の煩雑さにつながったという問題がありました。
- 令和7年度にそうした、事務の煩雑さの解消のために申告・報告の一本化に加えて、現状にあった加算にということで見直しがされました。

## 令和7年度(2025年度)からの制度変更

従来の「処遇改善等加算Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、令和7年4月11日付通知で統合され、制度内容や申請手続きが整理され、施設や自治体の事務負担が軽減されます。

事務手続きの簡素化等の観点から、「処遇改善等加算」に一本化し、処遇改善等加算に、「①基礎分」「②賃金改善分」「③質の向上分」の3区分を設定しました。申請様式・実績報告様式を処遇改善等加算として一本化としました。

## 区分1:基礎分 経験に応じた昇給の仕組みの整備や職場環境の改善

率により加算 (a) 平均経験年数により2%~12%

※キャリアパス要件の減率の仕組みは廃止し、要件化

## 区分2:賃金改善分 全職員の賃金改善を前提とした加算。

率により加算 (b) 平均経験年数により6%又は7%

(c) 9千円×算定職員数を率に換算

## 区分3:質の向上分(旧加算Ⅱに相当)職員の技能・経験の向上に応じた 賃金の改善

算定額により加算 4万円/5千円×算定職員数

研修要件については厳格化 配分対象職員・金額は施設が柔軟に決定できるように変更

## 主な変更点

- 区分1を取得するにはキャリアパスの構築が必須となりました(令和7年度は経過措置あり)。
- 区分2と区分3の合計の1/2以上を基本給・決まって毎月支払われる手当により改善することになります。
- 区分3は「最低1名に月4万円支給」ルールが撤廃され、研修修了者の人数に応じた加算額となります。※令和7年度に限り、年度内に研修修了予定の職員も人数計算に含むことが可能です。
- 「特別事情届出制度」経営悪化などで、賃金水準の一時的な引き下げが認められるケースもあります。
- 賃金改善の確認方法は下記の2点となります。
  - 処遇改善等加算(区分2・区分3)の加算額以上に賃金の改善を図っているか。
  - 基準年度の賃金水準を引き下げていないか。

※変更後は、実際の賃金で基準年度との比較をするため給与明細などへ加算や人勧分の増額など内訳がわかるようにしておくことをお勧めします。

## 令和7年度の制度変更についてのオンライン説明会動画

- こども家庭庁による、**新制度の説明会動画**(YouTube)が公開されています。視聴すると制度の背景や実務対応がより理解しやすくなります。 <https://youtu.be/SJgx7Bm7J80>



## ～年間連載⑩～

令和7年1月号より、学習院大学文学部教育学科の秋田喜代美教授による年間連載を行っています。「国際的な保育幼児教育の動向」について、SDGsや保育の専門性などにも触れながらの連載となります。乳幼児教育に長年携わっている秋田先生の連載から、幼児教育への理解を深める機会にしていただけますと幸いです。

# 台湾でのプロジェクト保育に学ぶ

学習院大学  
文学部教育学科教授 秋田喜代美

## 1 探究的なプロジェクトとしてのSTEAM教育

我が国でも、とうきょうすくわくプログラムなど自治体リードの下で探究的な学びとしてのプロジェクトを行う園も多くなってきています。今回は、私自身が実際に今年の春に台湾を訪問したい時に面白いと思ったプロジェクトの中で、日本ではあまり見たことがない取り組みを紹介したと思います。STEAM教育は科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術(Art)、数学(Mathematics)の5分野統合的なアプローチです。科学と芸術、ICT技術とアートなどの統合は保育の中でもよく見られるようになってきました。本報告の内容は、工学的な取り組みと科学的な取り組みです。台湾ではいろいろな工学的な取り組みもSTEAMの中で行われていましたが、今回の

内容は台中市にある四季藝術幼稚園という園での取り組みです。この園は台湾でのレッジョインスピアの園としても有名な園です。

## 2 自転車プロジェクト

年長になると、子どもたちは自転車に乗ることに興味関心を持ちます。これは日本でも同じかもしれません。そこで自由に園の屋上などで、いろいろな乗り物にのることを遊びの時間に子どもが楽しんでいます。そしてその中で、子どもたちは自転車が動く仕組みに関心を持ちます。おもしろいのは、保育室の中に写真1のように自転車が吊るされていたり、またどのようにしてタイヤが動くのかがわかるように、このプロジェクトの期間だけは設置がされています。(写真1、写真2)



(写真1)



(写真2)

そこで身近に自転車を感じた子どもたちが、自転車を実際に分解してみて、どんなもので成り立っているかを調べたりします。本当の自転車屋さんのお兄さんは、寝転んで下から作業をしていたからといいながらその様子を再現している子どもたちもいます(写真3-1、3-2)。また、そのような形で自転車が回転する仕組みを分解を通して知っていく子ど

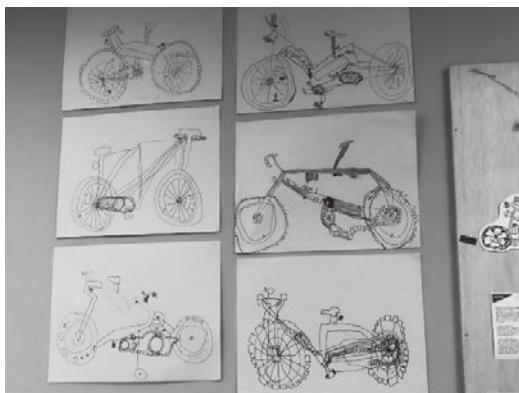
もたちがいる一方で、その自転車を丁寧に見て表現をしている子どもたちの作品も飾られています(写真4)。また自転車を描くだけではなく、自分が自転車に乗っているところを表現する制作をするコーナーもあり、やりたい子どもたちがそれを表現しています(写真5)。



(写真 3-1)



(写真 3-2)



(写真 4)



(写真 5)

物の仕組みを知るために、いろいろな物を分解したり組み立てる経験は工学的な発想につながります。日本でも 15 年くらい前までは、時計の分解などいろいろな経験ができる園もありましたが、さまざまな製品がデジタル化され、中をあけても半導体というようになってきています。しかしそうした時代だからこそ、子どもたちが自分で分解していろいろな部品から構成されることの感覚を持つことは、とても大事ではないかと感じました。

ご関心がある方は、以下の QR コードから YouTube でも様子を見ることができます。

園に工具や工房を作つてみることも、ものづくりへの誘いとして大事ではないかと感じたプロジェクトでした。皆さんのお園では、どのような STEAM にかかわる取り組みをされていますか。



## クラスや園のみんなで楽しめる アプリがチャイルドブックから登場！

App Store からダウンロード  
Google Play で手に入れよう  
ダウンロード無料

お誕生日会に  
いっしょによむぞう  
生活指導に  
絵本の読み聞かせに

いっしょによむぞう サブスクリプション料金

特別価格

※チャイルドブック担当営業員を介して  
ご購入いただいた場合の価格です。

1 アカウント／月額プラン 5,500 円（税込）

1 アカウント／年額プラン 55,000 円（税込）

初回会員登録限定 30 日間無料体験実施中！

iPad OS 14 以降  
対応 OS Android 5.0 以降

会員登録した日から 30 日間無料ですべての機能を  
ご利用いただけます。ぜひ、この機会にお持ちの  
端末でお試しください。



〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21  
TEL 営業 03-3813-2141 編集 03-3813-3785

チャイルド本社

## 「見通し」

### <新制度 10 年>

子ども子育て関連の 3 つの法律ができてから 10 年が経過しました。それぞれの思いを抱えながら、私学助成のままでし、施設型給付の園とし、認定こども園とした、という分岐を経験しました。それぞれの制度の中で、それぞれのサイズ感を意識して選択しました。その道が「最適」と経営者が認識した時点で最適です。また新制度における給付金関連の事務処理は誠に煩雑で、理事長の片手間でできるものではなくなりました。これを専門に計算してくれる業者もあるようで羨ましい限りです。そもそも国が恐れているのは資金の滞留です。給付はすれども、その使い道や蓄積具合を都度確認したくなる政府は、この度新たに見える化制度なるものを作り、さらなる精度をもとめています。見える化が経営者のパッションに繋がりますように。

<研究大会>さて三重県で 2026 年度に東海北陸地区の教育研究大会を行います。認定こども園となった園は平日の大会への参加が困難となりました。そんな中でも教育の質を担保すべく、従来のあり方を踏襲しながら、より質の高いアカデミックな意識の交流の場であることが求められます。

<先生の数、園児の数>日頃より先生の数は十分に集まらず四苦八苦していたところ、ここに来て急激に園児が減り始めました。いや、減りました。経営する人たちの自己肯定感を一瞬にして削り取るような勢いです。先生も園児も少數精銳です。

今日一日が平穏でありますように。明日のことは明日考えましょう。

((一社) 三重県私立幼稚園・認定こども園協会  
広報委員長、桑名市・幼稚園型認定こど園くわ  
な幼稚園／水谷秀史)

## 新たな希望とともに

長崎県では、転出人口の増加や少子化、造船等の基盤産業の弱体化等が相まって、加盟園は園児減少や運営の厳しさに直面しています。加盟園の園児数も令和 6 年度の 10,275 人から令和 7 年度は 9,448 人と 800 人を超える減少、そして県内の若年世代や子育て世代の流出もなかなか歯止めが利かないという現状です。

そんな厳しい状況下ではありますが、明るいニュースもあります。令和 6 年 10 月 14 日に長崎市中心部に開業した「長崎スタジアムシティ」は、サッカー場・バスケットボールアリーナ・商業施設・ホテル・オフィスなどから構成され、県外からの来訪者やスポーツ観戦者を呼び込み、令和 7 年 1 ~ 3 月期には県内宿泊者数が前年同期比で約 9 万人増加しました。日本初の“スタジアムビュー・ホテル”や屋内外スポーツ施設の整備等が地域の新たな賑わいを創出しています。

こうした地域創生プロジェクトのおかげで、今後の振興にも新たな希望が見えます。園と地域が連携を深め、質の高い幼児教育や子どもたちと働く保護者を支える預かり保育を提供していく、そんな環境を作り上げていくと同時に、このような取り組みが様々な形で県内各地に広がっていけば、若い世代や子育て家庭が戻ってくる可能性が生まれてくるのではないかと期待を持っています。

未来を担う子どもたちの笑顔は、私たちにとって最大の希望です。困難な現状は続きますが、このような明るい兆しを胸に、地域と手を取り合いながら、子どもたちが安心して過ごせる幼児期を支える環境づくりに前向きな努力を続けてまいります。

(長崎県私立幼稚園・認定こども園連合会常任理事、長崎市・日見幼稚園 園長／廣井昭博)

## 編集後記

山口県も10月に入り、朝晩はすっかり秋の気配を感じる季節となりました。日中も少しずつ過ごしやすくなり、山や公園などに園外保育へ出かける園も多いのではないでしょうか。

当園でも毎年この時期になると、近くの公園に出かけ、自然とふれあう体験を行っています。色とりどりの落ち葉やどんぐりを見つけた子どもたちは、目を輝かせて大喜びです。

ところで、この「どんぐり」、実はブナ科の木

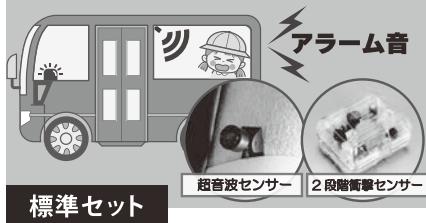
になる果実の総称で、漢字では「団栗」と書きます。日本には、どんぐりがなる木が22種類もあるそうです。その中には食べられる種類もあり、栗もその一つ。ほかにもスダジイやツブラジイなど、美味しく食べられるどんぐりもあるそうです。

この秋は、子どもたちと一緒に、さまざまなどんぐりを見つけてみたいと思います。自然の中での小さな発見が、子どもたちの心を豊かに育んでもくれることを願っています。

(広報委員・見山任昭)

## ホーネット 車内置き去り防止システム

車内センサーが人の動きや振動を検知してアラームでお知らせ！



標準セット

車両の位置情報や移動履歴などをスマホやPCで管理できます。



緊急通報

### カーセキュリティ機能付き車内置き去り防止システム

■エンジン停止後にブザーが鳴ります。

■見回りながら後部に設置したリモコンボタンを押してブザーを止めます。

アナログによる  
ヒューマンエラー  
防止

デジタルに  
による見守り



株式会社 チャイルド社 コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11

ホームページ: <https://www.child.co.jp/>

未来は、遊びの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、  
遊びから生まれた。

遊びは、すべての創造の源です。  
遊び力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。  
創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。  
遊びから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。  
遊びの環境に、あざやかな驚きを。  
私たちは、未来をつくる仕事です。



JAKUETS



遊具: HOUSE